

# 高等学校における国際観光教育について

## —国際集客都市を目指す大阪での取り組み—

大阪市立扇町総合高等学校教諭 吉田 常行

### 1. はじめに

「VISIT JAPAN キャンペーン」という言葉を聞いたことがあると思います。これは、国土交通省が行っている観光政策です。今、日本は観光立国をめざして、訪日旅行者の増加のために様々な政策を実施しています。日本は、世界的にみても豊かな自然や独特の文化があり、多くの観光資源を持っている国だといえます。観光資源は、ただそこにあるだけでは、何の経済価値もありません。人の手によって、観光地として創造される必要があります。21世紀は、「モノからココロ」の時代といわれています。その中で、生活にゆとりをもたらす「観光」は、大きなウェイトを占めることになるでしょう。

今、観光立国を目指すにあたっては、観光教育の必要性が叫ばれています。多くの自治体が、観光を地域振興に利用しています。そのためには、自治体にも、それを実現していく観光産業にも、専門知識と技能を持った人材が必要なのです。

### 2. 本校について

#### (1) 本校の沿革

本校は、大正12年に大阪市立扇町商業学校として開校しました。商業高校として長い歴史がありました。しかし、生徒の進路の多様化に対応するため、平成13年に商業科の募集を停止し、総合学科を新設しました。校名も大阪市立扇町商業高等学校から大阪市立扇町総合高等学校に変更しました。平成15年には、創立80周年を迎え、さらに総合学科1期生が卒業しました。

#### (2) 本校の総合学科

本校の総合学科は、伝統の商業教育を基礎に生徒の広範囲な進路希望にも対応できるよう進学科目にも力を入れています。本校では、次の6つの系列を設置しています。大阪の歴史や文学を学びながら文系進学を中心とした「大阪文化系列」、環境に関す

る学習をしてその中で大川の自然も学び、理系進学を目指す「環境科学系列」、マーケティングの知識を基にデザインを学習する「マーケティングデザイン系列」、情報表現を中心に情報関係の学習をする「情報ネットワーク系列」、本校の伝統の商業教育の流れをくむ「会計ビジネス系列」、そして、国際集客都市大阪で活躍できる人材を育成する「国際観光系列」です。

### 3. 高等学校における観光教育と本校

高等学校において観光に関する科目を実施している学校は、そう多くはありません。しかし、「総合的な学習の時間」や「課題研究」の時間に観光教育を行っている学校は結構あるようです。また、本校のように総合学科の1系列として観光関連の教育課程を持つ学校が増えました。

観光教育は、多くの学問分野にまたがる学際的学問です。そのため、高等学校における観光教育も本来は、特定の教科に属するのではなく、学校設定教科として開設されるのが望ましいといえます。しかし、実情は、「商業」の中の1科目として開設している学校が多いようで、本校もその例の一つです。観光という内容を学問的に指導することは、高等学校においては難しいと思われます。高等学校における観光に関する指導は、大きく分けると次の二つになります。一つは、資格試験を中心とした学習で、もう一つは、体験的内容を中心とした学習です。最近では、国家資格の難しさから資格試験を中心とした指導を行わない学校が増えてきています。その代わりに、「観光基礎」として観光の導入の基礎学習を行っているようです。地域密着型で開設した学校においては、地域の協力で体験学習を多く取り入れている学校が多いようです。しかし、確立されたカリキュラムは存在せず、また高校生向けの教材が少なく、どこの学校においても試行錯誤を繰り返しているのが現状です。

本校の国際観光系列は、大阪市の施策の一つであ

る「国際集客都市大阪」で活躍する人材の育成を目指して開設されました。この目標は、高校教育にとっては過大なものですが、個人的には、大阪という都市についての知識理解と情報発信ができればよいのではないかと考えています。本校の立地は、大阪の歴史と商いの中心地にあり、このような教育をするには好立地であると言えます。また、本校は、JRや地下鉄の駅に近く大阪市内のどこにも移動するにも好条件の場所にあります。このような本校の環境も、十分授業に生かすことができるのではないかと考えています。

#### 4. 国際観光系列の概要

##### (1) 教育課程

国際観光系列のカリキュラムは、観光に関する専門科目と英語の単位を重点的に配置したものとなっています。また、地歴においても世界史、地理、日本史の3科目とも履修させることにより、観光に必要な知識を習得できるようにしました。3年次の自由選択科目では、中国語、ハングル、スペイン語の外国語科目において、この系列の生徒にはいずれかを履修するよう指導しています。観光に関する専門科目は、2年次生の「観光概論」と3年次生の「旅行業演習」、「観光実務」、「トラベル情報管理」、「国際理解」です。

##### (2) 科目の内容

国際観光系列の専門科目のうち、「観光概論」「旅行業演習」について簡単に説明します。

##### ① 観光概論

この科目は、本来観光の入門的な科目なのですが、本校では、まず国内旅行業務取扱管理者の内容を学習しています。週4時間のうち2時間は、大学でキャリアアップ講座を担当している社会人講師を招

いて、本校の教師とTTで授業を行っています。生徒たちに観光教育に対する意欲を持たせるために、インパクトのある国家試験の受験を最初に目標としました。国内旅行業務取扱管理者試験には1期生から合格者を出しています。また、平成16年度には、一般旅行業務取扱主任試験（現 総合旅行業務取扱管理者）にも合格しています。

##### （目標）

旅行業法・約款を始めとする観光関連法規に関する知識と理解を深める。また、国内、海外観光地理、JR運賃や国際航空運賃の計算を含む観光実務に関する知識と技術を習得する。さらに、フィールドワークを通して地域の観光を理解する。

##### （学習内容）

前期は、国内旅行業務取扱管理者試験に関する内容を中心に学習する。後期は、修学旅行前に、韓国に関する地理学習を行い、さらに、旅券を始めとする入出国に関する法規の学習をする。後半は、国際航空運賃の計算方法を学習し、同時に、地域の観光についてフィールドワークを行いながら理解を深める。また、時刻表の使い方などを学習する。

- (ア) 旅行業法（社会人講師）
- (イ) 旅行業約款（社会人講師）
- (ウ) 国内観光地理
- (エ) 国内実務（JR運賃料金計算・各種料金計算・規則）
- (オ) 大阪の都市と観光（フィールドワーク）
- (カ) 出入国関連法規（社会人講師）
- (キ) 国際航空運賃（社会人講師）
- (ク) 時刻表の使い方（JR トーマスクック）



フィールドワーク  
大阪城

##### ② 旅行業演習

この科目は、2年次生で学習した内容を体験学習や実習を通して具体的に理解し、旅行業に関する実

#### 国際観光系列標準カリキュラム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年次	国語総合		現代社会		数学Ⅰ			理科総合A		体育			英語Ⅰ			芸術選択		家庭基礎		情報C		産業社会と人間			国語総合		HR				
	系列別選択																														
2年次	世界史A		理科選択		体育		保健		オーラルコミュニケーションA		現代文			英語Ⅱ			観光概論			英語実務		地理A		自由選択		自由選択		総学		HR	
3年次	日本史A		体育		保健		旅行業演習		観光実務		トラベル情報処理			国際理解		リーディング			国際ビジネス		自由選択		スペイン語 ◇中国語 ハングル		自由選択		総合学習		HR		

グレーの部分は、必修科目

◇の外国語は、1科目を選択。（他にも選択科目あり）

務を身に付けさせる科目です。多くの時間を実習に割りあてています。

(目標)

前期は、バスツアーの企画を行い、これまでに学習した法規や実務に関する知識を体験学習を通して理解し習得する。

後半は、旅行会社における模擬カウンター実習を通して、旅行業における接客などの実務を理解し身に付ける。また、実際の旅行にあわせた、時刻表等の利用方法を身に付ける。最後に、仮想のツアーパンフレット作成を行うことでこれまでの学習内容をまとめる。

(学習内容)

前半は、バスツアーの企画に関する学習をする。後半は、実際の旅行社のパンフレットを使い、カウンターにおけるパッケージツアーの受付や旅行相談業務について学習する。

また、最後には各自が仮想のパッケージツアーを企画し、募集パンフレットを作成する。

(ア) バスツアーの企画・準備

(イ) バスツアーの実施

(ウ) カウンター実習

i 旅行業について

ii パンフレットと旅行商品

iii パンフレットの見方

iv カウンター販売の実際

v 旅行相談

(エ) 仮想パッケージツアーの企画

### (3) 体験学習 バスツアーの実施

現在、「旅行業演習」の授業と関連して、3年次生が夏期休業中に体験学習をしています。内容は、生徒の手によるツアーの企画と添乗体験学習で、一般市民を対象にした「生徒企画 夏休みバスツアー」を実施しています。

この体験学習の特徴は、自分たちが主体的に行う能動的な体験学習であるという点です。インターシップなどの多くの体験学習は、決められたプログラムや作業などを行う受動的な体験学習が多いものです。観光産業は、イメージ産業であり、非常に景気に左右されやすい産業です。そのため、自ら観光資源や顧客の創造という作業をすることが必要で、自ら考え自ら行うという体験学習は欠かせないと考えています。

#### ・ツアータイトルとコース

<第1回ツアー> 平成15年8月28日実施

「水の都で再発見」

水道記念館－水上バス－海遊館

<第2回ツアー> 平成16年8月27日実施

「再発見 大阪史ろうぶらり旅」

大阪歴史博物館－天神橋筋商店街－阪堺電車

(ちんちん電車)－住吉大社

<第3回ツアー> 平成17年8月26日実施

「ほな行こか！うちの大阪再発見ツアー」

なにわの海の時空館－ATC－エル・シティ館

(関西電力広報施設)－大阪市広報船乗船

(学習内容)

(ア) ツアーのコンセプト企画

(イ) ツアーコースの決定

(ウ) ツアーコースの下見と見学先への協力依頼

(エ) ツアー内容の詳細の検討

(オ) ツアー参加募集要項の作成とポスター・パンフレットの作成

(カ) 募集活動

(キ) ツアー当日の役割分担とシナリオ作成

(ク) ツアー準備

(ケ) ツアーの実施

(コ) ツアー参加者へのお礼発送

(サ) 反省と自己評価

### (4) 体験学習を実施して

第1回目は、ツアー実施のための予算が決定したのが、6月下旬ということもあり、大変あわただしい中でツアーを実施しました。そのため、多くの作業を教師が行ってしまいました。また、生徒は、実際の社会経験の少なさから、ツアー実施者の立場にありながら、自分が楽しんでしまうという場面が多く見られました。これは、準備不足による能動的な学習が陥りやすい課題です。そこで、2回目以降は、マナーや主催者の立場といった点を十分に指導しています。生徒にとっては、とまどいも多いようですが、実際にお客様に接する貴重な体験となっています。

## 5. 観光教育と国際化教育

本校では、国際理解教育の一環として、海外修学旅行を実施しています。1期生は、中国に行きましたが、2期生以降は、韓国に行っています。この修学旅行も、異文化体験といった点では、十分な効果を上げていると思います。さらに、この系列の中では、入出国手続きや国際線の利用、海外事情の理解などの貴重な体験学習としてとらえています。観光概論の授業の中でも、修学旅行にあわせて入出国、検疫などの内容を指導しています。

この系列の中での国際化とは「内なる国際化」だと考えています。長期の海外体験を通じた国際化は、費用などの面で難しい点があります。そこで、この系列においては、国内での国際化教育を考えてい

ます。観光の世界でいえば「インバウンド」教育です。はじめに述べました、「VISIT JAPAN キャンペーン」は、まさにインバウンドそのものです。つまり、日本に来た外国人旅行客（訪日観光客）にどのようなおもてなしをすべきかを学習しようと思っています。それは、「国際集客都市大阪」の目指す教育でもあります。日本の文化や風習などを理解し、これを伝えることができることは大切です。特に、高校教育の段階では、外へ外へと目を向けることより大切な国際人としての基本ではないでしょうか。自国のことが理解できてこそ、異文化理解も可能となるのです。そこで、本校では、地元大阪の観光を中心に学習し、また、茶華道や邦楽を通して日本の文化や風習の理解を深めるようにしています。

平成 17 年度には、内閣府が招聘した国際交流青年団が来阪した際の大阪府プログラムにおいて、国際交流バスツアー「まいど大阪へ」を実施しました。これは、インバウンド教育を目指す本校の観光教育にとってはまたとない貴重な経験となりました。海外の青年団をどのようにもてなすか、生徒は苦心して無事ツアーを成功させました。



府庁での表敬訪問



大阪城前にて集合写真

観光教育は、おもてなしの心の教育、つまりホスピタリティ教育です。生徒には、どのようにして大阪で外国の人々をおもてなしするかを考えることができるようになってほしいと思っています。

## 6. 今後の課題

本校の国際観光系列は、3 期生を送り出し、選択者の数も増えてきました。しかし、全国の観光関連科目を持つ高等学校の中ではまだ新しい方です。そのため、課題はたくさんあります。まずは、指導者の問題です。1 年目は、ほぼ 1 人で系列の運営を担当してきました。現在は、新任の先生や転任の先生を中心に観光に関する科目を担当してもらっています。授業の指導内容や計画もまだまだ改善が必要です。特に、カウンター実習やツアーに関する知識などは、もっと専門性を高めるべきだと思っています。しか

し、教員が実務的な技術を習得するために実地研修を受ける機会が無く困っています。また、国際教育の問題も、インバウンドからアウトバウンドへどの程度踏み込むか迷っています。アウトバウンドへ踏み込むためにはある程度の経費と人手が必要です。選択者が少ない系列にとっては難しい問題です。このような課題は、全国の観光系列を持つ高等学校にとって多かれ少なかれ共通のもののようにです。しかし、観光教育に未来がないわけではありません。観光は間違いなく 21 世紀の産業です。特に、関西は、多くの世界遺産に恵まれ、世界的にも例を見ない国際観光資源の集積地なのです。この関西に、観光に従事する国際感覚を持った人材を育成するための基礎教育は不可欠だと思っています。

最後に、高等学校の観光教育に関する研究団体をいくつかご紹介します。まず、「全国高等学校観光教育研究大会」があります。これは、全国で観光科目を実施している高等学校の研究団体で、平成 18 年度は、青森県立十和田西高等学校が、事務局となっています。次に、「高等学校における観光教育推進研究会」があります。これは、横浜商科大学の羽田教授が座長となり、特色ある学校教育として観光教育を展開する意味や方法を現場の先生方にお伝えし、ともに考える場を提供しています。(株) JTB 能力開発のご協力で Web サイト (<http://www.jtb-hrs.co.jp/kankyoken/>) を開設しています。また、大学の先生が中心ですが、高校の先生方も会員として参加している研究団体に「日本観光ホスピタリティ教育学会」(<http://jsthe.org/xoops/html/>) があります。

高等学校における観光教育は、多くの課題を抱えています。実践校が増えることで、連携を取り合って解決できる課題も多くあります。ぜひ多くの商業高校で観光の専門科目を開講して頂き、観光教育を充実したものにしていきたいと思ひます。